

## 愛玩動物看護師法の制定と今後の取組み —チーム獣医療の連携推進に向けて (Ⅱ)—

### 認定試験機関から国家試験指定機関への期待と課題 (その2)

酒井健夫<sup>†</sup> (一財)動物看護師統一認定機構 代表理事 機構長,  
(公社)日本獣医師会 顧問, 日本大学 名誉教授)



#### 4 動物病院及び地域社会で期待される愛玩動物看護師の今日的課題

動物病院における愛玩動物看護師の役割は、愛玩動物看護師法に規定されているとおり、獣医師の指示の下で診療を補助し、獣医療チームの一員として活躍すること

にある。その役割は獣医療の成果を左右すると言っても過言でなく、極めて重要な立場にある。そこで、愛玩動物看護師が動物病院及び地域社会で果たす役割の今日的課題を、著者がこれまでに訴えてきたことを中心に取りまとめた [16, 17].

#### (1) 愛玩動物看護師を取り巻く地域社会

家庭で飼育されている愛玩動物は、家族の一員、生命の伴侶の役割を担っているため、動物病院では獣医師と愛玩動物看護師は連携して、高度で最新の獣医療を提供しなければならない。特に愛玩動物看護師法が成立した今日、動物病院はもとより、飼い主を含め、地域社会からの愛玩動物看護師に対する期待は大きい。

一方、愛玩動物看護師の業務は、診療の補助の他、愛玩動物に対する飼育指導をはじめ、愛護と福祉に関する分野での活躍も期待されている。特に動物が安心して生活できる地域コミュニティにおいて動物の飼育支援、また災害発生時の動物の同行避難や救護、災害派遣獣医療チーム (VMAT: Veterinary Medical Assistance Team) の構成員としての活躍、さらに動物介在活動 (Animal Assisted Activities: AAA) や動物介在療法 (Animal Assisted Therapy: AAT)、動物介在教育 (Animal Assisted Education: AAE) への協力等が挙げられる [18].

そうした中、2019年 (令和元年) 6月に、「愛玩動物看護師法」の成立とともに「動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律」が公布され、翌2020年 (令和2年) 6月から施行された (8週齢規制及び第一種動物取扱業者の遵守基準は2年後の令和3年、マイクロチップの装着・登録の義務化は3年後の令和4年に施行)。同法では、動物の所有者等が遵守すべき責務規定の明確化、第一種動物取扱業による適正飼養頭数の促進、出生後56日 (8週) を経過しない犬または猫の販売等の制限、動物の適正飼育のための規制の強化、適正飼養が困難な場合の繁殖防止の義務化、動物虐待に対する罰則の引き上げ等が改正された。特に動物取扱責任者として、獣医師及び実務経験のある常勤職員に加えて、愛玩動物看護師が追加された。

一方、マイクロチップの装着は、動物の迷子等の際の活用、居所不明の犬猫の所有者の探索、犬猫の遺棄防止等のために有用であり、犬猫繁殖業者等に対する義務化とそれ以外の者に対する努力義務として改正された [19-21]。マイクロチップの装着は、犬や猫の背側頸部の皮下に専用インジェクターで、通常の皮下注射と同様のため、動物への負担はないと言われている。マイクロチップに記録されている個体識別番号は、国内外で一つしかなく、日本獣医師会等のデータベースで管理されているため、動物から読み取った個体識別番号をデータベースに照会すると、瞬時に飼い主が検索される。

マイクロチップの動物への装着は、世界的に普及していて、海外からわが国に犬や猫を持ち込む場合、動物検疫を受ける際にマイクロチップによる個体の識別は必要である。また海外、特にマイクロチップの装着が義務付けられている国に、犬や猫を連れて行く際は、それに従わなければならない [22].

ペットフード協会による2019年 (令和元年) 10月の全国の飼育頭数の推計は、犬8,797千頭、猫9,778千頭

<sup>†</sup> 連絡責任者: 酒井健夫 (動物看護師統一認定機構)

〒113-0033 文京区本郷5-23-13 タムラビル8階

☎ 03-5805-6061 FAX 03-5805-6062

E-mail: jhhmy095@ybb.ne.jp

と推定されていて [23], 日本獣医師会による 2019 年 (令和元年) 12 月のマイクロチップ登録頭数は, 犬 1,671 千頭, 猫 4,854 千頭であるので, 装着率は犬約 19%, 猫約 5% となり, いずれも極めて低いことになる. 犬や猫の飼い主は, マイクロチップを装着し, その情報を登録しておけば, その動物が迷子, 被災, 盗難, 事故に遭遇した際, 確実に所有の明示ができるので, マイクロチップは人と動物の共生社会においては極めて重要である.

今後, 一層のマイクロチップ装着の推進を図る必要があることを, 愛玩動物看護師は認識し, 普及活動に参画する必要がある.

## (2) 愛玩動物看護師が活躍する動物病院の変遷

過去に犬は番犬, 猫は家屋に住みつくネズミ捕りの役割の大きかった時代を経て, 今日では愛玩動物は家族の一員であり, かけがえのない伴侶動物になっている. それに伴い愛玩動物を診療する動物病院が増加し, 2019 年 (令和元年) のわが国における動物病院の総数は, 11,981 施設となった [1].

一方, 小動物臨床に従事する獣医師は, 1970 年代はわずかであったが, 1980 年代になると増加をはじめ, 2018 年 (平成 30 年) の獣医師届け出数全体 39,710 名のうち, 小動物診療施設の獣医師は 40% の 15,774 名になった [2]. また, 20~30 歳代の獣医師の約半数近くは女性が占めていて (40 歳代 36%, 30 歳代 46%, 20 歳代 45%), 診療現場で活躍している.

動物病院の名称は, 1950 年~1970 年代には, ○○獣医科病院や○ ○○獣医科医院が一般に用いられていたが, 今日では○ ○○動物病院, ペットクリニック, アニマルクリニック, アニマルホスピタル, 動物医療センター, アニマルメディカルセンター等の名称が用いられるようになってきた.

こうした中で, 診断や治療については, 1980 年代まではフィラリア症や回虫症などの寄生虫疾患, ジステンパーやパルボウイルス感染症, あるいは交通事故による骨折等が主体であった. 検査機械も X 線検査装置が設置されていた程度であり, 血液検査機器などは備わっていなかった. その後, 1990 年代になると, ほとんどの動物病院に一般血液検査や血液化学検査機器が設置され, 超音波検査機器も多くの病院に導入された. 2000 年代になると, CT 検査機器が導入され, MRI 検査機器を備えた動物病院も数多く見られるようになった.

前述したがわが国の動物病院の 64% は, 獣医師 1 名と動物看護師数名で獣医療チームを構成している. しかし, 時代とともに複数の獣医師と動物看護師が勤務する動物病院も増えてきて, 10 人以上の獣医師が勤務している動物病院も 253 施設 (全病院の 2.1%) となった.

また, 以前はいずれの動物病院も一般診療が主体で

あったが, 約 20 年前から徐々に専門性に特化する動物病院が設置され, 動物別では小鳥専門やエキゾチック・アニマル (伴侶動物として飼育されている犬猫以外の動物) 専門, また診療分野別では, 眼科専門, 歯科専門, 皮膚科専門, 耳科専門, 癌専門, 整形外科専門, さらに診療体系別では, 画像診断専門, 夜間救急診療専門, 往診専門等のさまざまな診療に特化した動物病院が開設されている. それらの多くは, 大学動物病院と同様に 2 次診療施設の役割を果たしている.

一方, 飼い主側もインターネット等を利用して, どの動物病院の得意分野は何か, 症例数が多い動物病院はどこか, 飼い主の評判のいい動物病院はどこか等について, 事前に調べて診療を求める等, 診療分野が一樣でないことを知っており, 疾患別に動物病院を変える飼い主も少なくない.

さらに, 動物病院と連携を図る臨床検査機関である検査サービスを受託する会社も増えてきて, 微生物検査, 血液化学検査, 内分泌検査, 遺伝子検査, アレルギー検査, 免疫検査, ウイルス検査, 病理検査及び画像検査等を実施する会社が多数活動していて, 各動物病院の診断機能が充実してきた.

なお, 犬の飼育頭数は, 2008 年 (平成 20 年) の 1,300 万頭をピークに減少し続け, 2019 年 (令和元年) は 8,797 千頭に減少した. 他方, 猫の 2019 年の飼育頭数は 9,778 千頭で, ここ数年微増している [23]. 犬の飼育頭数が今後も減少を続けることを避けるため, 関係団体が連携し, 飼育頭数の増加を図らなければならない.

近年, 動物病院の開業が増える一方で, 廃業も目につき, 獣医師が高齢や傷病, あるいは後継者問題等によって, 廃業せざるを得ない例が少なくない. そのような中, 動物病院の譲渡をサポートするコンサルティング会社もあり, 動物病院の開業や廃業に, これらのコンサルティング会社を利用している獣医師も多い.

1980 年代までの獣医師は, 一般診療を行う動物病院で研修医として研修に励み, 獣医療の知識・技術を身に付けると, 2~3 年後に開業していた. 今日では, 研修期間が延長し, 大学卒業後に数カ所の動物病院に勤務した後に開業するか, そのまま勤務を継続する獣医師もいる. また, 一部の獣医師は, 動物病院で数年間, 研修を重ねたのちに, 大学病院や専門病院の研修医, あるいは海外の動物病院や大学で学ぶケースもある. 現在, 新規獣医師が開業までに時間を要するようになった背景には, 診療現場で研修する内容が多くなり, しかもレベルの向上等が挙げられる (図 1~8).

わが国の近代獣医療は, 明治以降に軍馬の治療から始まり, 次いで牛や豚などの生産動物の診療が主体とな



図1 採血時の動物保定-1



図5 エコー検査時の補助



図2 採血時の動物保定-2



図6 手術中の器具機材の確認と手術補助



図3 血液生化学的検査の実施



図7 歯科治療時の麻酔モニター管理と記録



図4 X線撮影の補助



図8 急患症例の気管挿管の補助

り、その後、犬や猫などの愛玩動物の獣医療に移行したのはこの半世紀である。特にこの20～30年間の愛玩動物ブームに伴って動物病院は急激に発展してきた。このようにわが国の小動物獣医療の歴史は欧米に比較して新しい。他方、わが国では、獣医学教育の履修期間が6年制に改変されて30年以上経過し、この間、モデル・コア・カリキュラムの普及、臨床実習の強化、臨床実習の開始前の共用試験の導入等、獣医学専修教育の時間数を確保した獣医学教育が普及されてきた。

一方、6年間の大学教育を経て獣医師のライセンスさえ取得すれば、直ちに動物病院で臨床獣医師として獣医療に従事することができ、新規獣医師がこのような状況で、動物病院で診療に携わっていることを、筆者は危惧するものである。すなわち、わが国では、獣医師法第16条の2に、「免許を受けた後も、大学の診療施設（動物病院）又は農林水産大臣の指定する診療施設において、臨床研修を行うように努めるものとする」とあるが獣医師国家試験合格後の臨床研修はあくまで努力規定であり、義務ではない。

今後も広範な一般獣医療の発展及び専門性や分業化等の推進により、質の高い技術が求められると考えれば、愛玩動物看護師もこれらの点を理解した上で、獣医療のさらなる整備充実に参画しなければならない。

### (3) 動物飼育支援における愛玩動物看護師の役割

現在、人も愛玩動物も高齢化社会を迎えているため、予防医療や予防獣医療を活用した「元気に長生き」が重要となる。そのため、高齢動物を管理する上で、飼い主が、「かかりつけ動物病院」を持つことは、動物に異常が見られなくても健康を推進する上で有益である。さらに、飼い主に動物愛護福祉の取組みを理解してもらい、動物の健康維持への関心、理解を図る上で、「かかりつけ動物病院」の役割は大きい。

愛玩動物は在宅や施設入居の高齢者に対してアニマルセラピー効果があると言われている [24]。このように愛玩動物との生活には、さまざまなメリットがあるが、一方、人と動物が同一の環境で生活する上で新たな問題も生じてくる。無駄吠え等の騒音や臭気、動物の散歩と排尿・排便の対策等、近隣住民への飼い主のマナーの向上は不可欠であり、またマンション等の集合住宅での動物飼育には、近隣住民とのコミュニケーションによる理解を図ることが不可欠である [25]。

近年、動物の長寿化に伴い、思わぬ事故や傷病により高額な治療費を要することもある。老犬・老猫の介護の問題の他、飼い主が高齢の場合は動物の介護や通院が困難になることも考えなければならない。さらにいずれ訪れる動物の死も問題となり、動物を失う大きな喪失感から、ペットロスも問題になる。

愛玩動物を飼育することは、幸福感に満ちた人生が送られ、明るく豊かで潤いのある生活が得られる一方、動物の寿命や、終末獣医療のあり方も考えながらの飼育指導と支援することも愛玩動物看護師に期待される。

今日、予防獣医学の普及、獣医療技術の進展、高品質のフードの市販、家庭における飼育環境の整備が図られて、愛玩動物の平均寿命は延びているが、その結果、高齢な愛玩動物は、人と同様に心臓病や腎臓病などの内臓疾患、腫瘍、関節炎、認知症がみられるようになった。そのため、愛玩動物の高齢化に対してさまざまな取組みが行われている。

犬や猫は、人に比べて短い期間で高齢化を迎え、また動物は罹患しても自身から訴えることができないので、症状が発現して初めて飼い主が気付くことが多い。そのため、愛玩動物における傷病の早期発見や予知を図るには、「かかりつけ動物病院」（ホームドクター）を利用し、愛玩動物の定期的な健康診断が推奨される。

さらに、高齢化に伴い、基礎代謝が低下するため、通常のフードの給与では肥満や疾病に罹患する可能性がある。そのためには加齢やその状態に応じて、フードを選択する必要がある。現在、年齢や疾病の種類に応じたフードやサプリメントが市販されており、愛玩動物個々の状態に応じたフードを給与することで、傷病の発生予防や症状の軽減化につながると考えられる。

高齢や関節炎が発症した愛玩動物は、全身の筋力低下がみられ、歩行障害等の日常生活の中でさまざまな支障が生じることがあるので、すべりやすいフローリングにカーペット等の滑りにくい素材を敷くことや、バリアフリーの環境を整える対策が有効である。さらに近年では、ペット共生住宅やペット共生マンションの利用が期待されている [26]。

また歩行障害等に対しては、歩行補助用のハーネスを用いて歩行をサポートし、筋力低下を予防する方法や、車いすの利用もある。さらに、寝たきりのペットでは、褥瘡を予防するために低反発マットの使用や定期的に体位変換を行う必要がある。

このように、高齢化の愛玩動物は、人と同様に介護が必要なので、高齢の飼い主の場合や介護対象の動物が大型犬である場合は、飼い主の負担が大きい。まだ数は少ないが、自宅での介護が難しい愛玩動物に対する養護施設等、人の高齢者対策と同様の考え方や対応が用いられるようになってきた。今後、動物の介護施設の増設や、高齢の飼い主と愛玩動物が同時に入居できる施設の設置が望まれる。このように、愛玩動物の高齢化に対して、獣医療、給与飼料、居住環境、介護支援等、人と同様の対策の応用が期待されることを、愛玩動物看護師に理解

してもらう必要がある。

注目すべき数字は2019年（令和元年）の犬と猫の飼育頭数合計1,875万頭であって、2018年（平成30年）度の総務省人口推計における15歳未満の子ども人口1,541万人に比べて明らかに多い。このような社会の中で、ペットフード協会が公表した2019年の飼育世帯率は犬約13%と猫約10%になる。犬や猫の愛玩動物が伴侶動物として認知されている今日、将来的な高齢化に対して飼い主が対応するには、全ての集合住宅でルールを守りつつ動物の飼育を可能にする活動の推進、また地域やグループによる動物の共同飼育システムや飼育支援システムの構築等、高齢者と高齢動物が安心して過ごせる社会に向けての取組みが求められる。これらのことを、愛玩動物看護師が理解し、社会を支援する役割を果たすことも重要である。

#### (4) 地域コミュニティにおける防災対策

2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災では、死亡した犬は約3,100頭、保護された犬と猫は約2,000頭、飼い主と一緒に避難所に避難した犬と猫は約1,400頭と推定されている。保護された犬や猫は、3カ所のシェルターで過ごしたが、全頭が飼い主や新しい飼い主に引き取られ、シェルターは閉鎖された。

日本獣医師会や地方獣医師会、また全国の獣医師は、1995年（平成7年）1月17日の阪神淡路大震災、2000年（平成12年）3月31日の有珠山や2000年7月8日の新潟中越地震及び2007年（平成19年）7月16日の新潟県中越沖地震等の発生の際に、動物救護活動を精力的に行った。

この経験を活用し、2011年（平成23年）3月11日の東日本大震災では発生直後より、被災地で被災動物の救護や保護、治療、避難所や仮設住宅で暮らす飼い主への飼育相談、動物救護活動を行う獣医師への支援、動物救護シェルターの運営に取り組んできた。また、日本獣医師会は、動物愛護の推進及び動物と人の絆を守る観点から、緊急災害時に被災した動物の迅速かつ適切な救護を目的に、日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、日本愛玩動物協会と協力して、1996年から「全国緊急災害時動物救援本部」の活動に参画してきた。

なお、2015年（平成27年）6月に環境省自然環境局総務課動物愛護管理室が発行した「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」で、「同行避難」とは災害発生時に飼い主が飼育している動物を同行して避難場所まで安全に避難することであり、避難所での人とペットの同居を意味するものではないと定義している。また、同「救護対策ガイドライン」には、これまでの大規模災

害の経験から、飼い主とペットは同行避難すべきであり、その同行避難を円滑に実施するためには、災害時だけでなく、日頃から飼い主の備えが重要であると記載されている。

2016年（平成28年）4月14日21時26分、熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の強い前震が、さらに16日1時25分、マグニチュード7.3、最大震度7の本震が発生した。報道によると、この地震で死者は関連死を含めて67名、行方不明1名、重軽傷者1,648名、最大避難者18万4千名、加えて熊本城の損壊や阿蘇大橋の崩落をはじめ、多くの家屋倒壊や土砂災害等、大きな被害をもたらした。電気、ガス、水道等のライフライン、交通網が被害を受けて、多くの人々の生活に甚大な影響が生じ、避難生活が長期化した。

地震発生から1週間が経過した4月25日、日本獣医師会は、熊本に派遣した地震調査団の報告に基づいて、現地対策本部の円滑な運営と獣医療提供のための獣医師や支援要員の派遣、動物用医薬品の提供、被災者への動物診療クーポン券の配布を決めた。獣医師を含めた支援要員については、4月29日から6月15日まで派遣を続けた。

熊本地震では、環境省の「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」に従い、被災者と被災動物の同行避難、負傷動物の保護・救済、放浪動物の管理、動物救護施設の設置による被災動物の一時預かり等に対応できたと考えている。しかし、避難場所で乳幼児を抱えた母親が避難施設の廊下や自動車の中で過ごしていることに心を痛めたのと同様に、動物と同行避難した飼い主が周囲の人々に遠慮して、廊下や屋外、また車の中で過ごしている報道もあり、今後解決しなければならない課題である。すなわち、同行避難先である一時避難場所の中に、動物と一緒に安心して過ごせる二次避難場所の確保が必要である。

また、万が一に備えて、動物に迷子防止のためマイクロチップの装着、避難先で気兼ねなく過ごせるように、動物に普段からのしつけ、避難用品や動物の病歴や通院歴、常備薬の確保、感染防止のためのワクチン接種、特に犬には法律に基づいて義務付けられている狂犬病ワクチンの接種を行っておく必要がある。

その後、2017年（平成29年）7月に福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨による九州北部豪雨、2018年（平成30年）7月に西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的な範囲で集中豪雨が生じた西日本豪雨、同年9月に北海道胆振地方中東部を震央として発生した北海道胆振東部地震、2019年（令和元年）9月に千葉県を中心に甚大な被害が出た令和元年房総半島



図9 2016年4月に発生した熊本地震の際、九州VMATが災害地に設置した愛玩動物相談コーナー（福岡県獣医師会提供）



図10 2016年4月に発生した熊本地震の際、災害地で九州VMATによる大型検診車内での診療（福岡県獣医師会提供）

台風が発生した。

今後は、まだまだ多く発生すると思われる自然災害に備えて、人と飼育動物が安心して過ごすことができ、人と動物の共生社会を現実的なものにするためにも、短期的な救済・救護活動から長期的な活動に切り替える時期が来ている。さらに、首都直下型地震や南海トラフ地震等、巨大地震の発生が論じられる今日、災害時には飼い主に平常時以上の多くの負担と責任が求められるので、飼い主は平常時からこのようなガイドラインや行政機関、地方獣医師会からのアドバイスを参考に、具体的対策を準備しておくように、愛玩動物看護師は飼い主にアドバイスする力が必要である（図9、10）。

一方、1995年（平成7年）1月17日に発生した阪神・淡路大震災の教訓から、災害時の救急医療の提供体制を整備するため、消防、警察、自衛隊、行政機関と連携しながら、災害発生直後に活動できるトレーニングを積んだ医療チームであるDMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム）が発足した。

大規模災害の発生初期、おおむね48時間以内に、専門的な訓練を受けた医師と看護師、業務調整員で構成された医療チームが、災害現場に派遣され、活躍している。DMATは、国の防災基本計画にも定められ、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災や2016年（平成28年）4月14日と16日に発生した熊本地震の際にも大いに活躍した。

阪神・淡路大震災、有珠山や三宅島の噴火災害、新潟中越地震、東日本大震災では、さまざまな動物達も被災し、一般財団法人全国緊急災害時動物救援本部の支援により、地元獣医師会や日本獣医師会、また都道府県や政令都市の55地方獣医師会が協力して、被災動物の救護、保護、診療を始め、避難所や仮設住宅で暮らす飼い主の飼育相談に応じ、救援活動を行ってきた。しかし、災害発生直後に、迅速かつ組織的な初期段階での緊急動物救

済活動は十分でなかったと言わざるを得ない。

そこで、福岡県獣医師会が中心となって、2013年（平成25年）に全国で初めて災害発生時に活動する災害派遣獣医療チームであるVMAT（Veterinary Medical Assistance Team）が発足した。動物の救急・救護処置に関する講習を受講した獣医師や動物看護師、訓練士等から構成された獣医療チームが、災害発生時に人命救助を妨げない範囲で、初期の被災動物の救出・保護活動を目指している。同様な組織は群馬県獣医師会を始め、全国で誕生し活動が期待されている。特に最初に発足した福岡県獣医師会の災害派遣獣医療チームのVMATは、熊本地震の際、被災動物の救護や獣医療の提供を行い、その成果が高く評価されている。

今後、都市直下型地震、東海地震、東南海・南海地震等の他、台風、局部的豪雨、河川氾濫、地盤崩壊等の自然災害が起きないことを願っているが、万一に備えて、平時と同様な救急・救命獣医療が提供でき、災害現場で機動性と専門性を備えたVMATの活動が期待される。

一方、家庭飼育動物だけでなく、動物愛護管理法で人に危害を与える恐れがある危険な動物として指定されているトラ、ニホンザル、タカ、ワニ等の「特定動物」、また野生動物、さらに東日本大震災の際に放置されたり放浪していた所有者のある「家畜」について、その飼養目的に沿った災害発生時の取扱いも、行政機関と連携を図りながら取り組む必要がある。

緊急災害時におけるVMATによる被災動物の救急・救護活動についても、愛玩動物看護師の理解と協力、支援が必要である（図11）。

##### （5）動物看護師統一認定機構の現状と将来

前述したが、日本獣医師会は、第68回総会（2011年）

で全国統一の試験実施とそれによる資格を認定する「動物看護師統一認定機構」の設立を採択し、2011年（平成23年）9月29日に同機構は設立された。その後、本機構は社会的な信頼と責務を果たすため、2016年（平成28年）2月1日に法人化され、一般財団法人動物看護師統一認定機構となった。

これまでに本機構に就任した機構長は4名である。初代は山根義久機構長（東京農工大学名誉教授・日本獣医師会前会長；就任期間2011年（平成23）9月29日～2014年（平成26年）4月23日）、2代目は佐々木伸男機構長（東京大学名誉教授・日本獣医学会元理事長；就任期間2014年（平成26年）11月7日～2018年（平成30年）5月30日）、3代目は池本卯典機構長（日本獣生命科学大学名誉教授・同大学元学長；就任期間2018年（平成30年）6月1日～2019年（令和元年）6月30日）、4代目は酒井健夫（日本大学名誉教授・同大学元総長；就任期間2019年（令和元年）7月1日～現在）である。いずれの機構長も、獣医学教育及び研究のエキスパートであり、本機構が社会的信頼と責任を十分果たしてきたといえる。

本機構の定款を見ると、その第3条の目的に、「この法人は、動物の看護に従事する者の知識・技術の高位平準化、教育レベルの向上、全国統一試験の実施並びにその資格認定を行うとともに、愛玩動物看護師法に定める指定試験機関として愛玩動物看護師国家試験等を実施し、もって適切な獣医療の提供体制の整備に寄与することを目的とする」とある。また、第4条の事業に、「この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。①認定動物看護師の全国統一試験に関する事業、②認定動物看護師の資格認定に関する事業、③動物看護学に係るセミナー、講習会等に関する事業、④動物の看護に従事する者の教育の質保証・向上に関する事業、⑤愛玩動物看護師法にかかる指定試験機関に関わる業務、⑥その他この法人の目的を達成するために必要な事業」とある。

したがって、本機構は全国統一の動物看護師認定試験の実施及びその結果に基づく資格認定はもちろんのこと、本機構で認定してきた動物看護師25,078名（2020年（令和2年）6月1日現在）及び動物看護学を修学中の学生が、国家試験を受験し、合格して愛玩動物看護師資格を取得し、就業を続けられ、また新たに就業できるように、関係団体と協力して支援することも本機構の役割である。

動物看護師を養成する上で重要なことは、学生に学ぶ目的とその内容を正しく理解してもらうことであり、そのことは認定動物看護師養成のコアカリキュラムに明記し、公表してきた。愛玩動物看護師法に基づくコアカリ



図11 2019年9月、九州災害動物救護センター（大分県九重町）で実施した九州VMATによる負傷を想定した災害救助犬の診療訓練（福岡県獣医師会提供）

キュラムは、今後、主務省が設置した愛玩動物看護師カリキュラム等検討会で協議されるが、ここでは現在の認定動物看護師を養成するためのコアカリキュラムについて述べる。

2012年（平成24年）に、専修学校では全国動物教育協会が、大学では全国動物保健看護系大学協会が、それぞれコアカリキュラムを作成し、教育に用いてきたが、それぞれ独自のものであった。そこで、2013年（平成25年）に、本機構はこの2つの教育機関のコアカリキュラムを連携させるための対応表「認定動物看護師出題範囲2015年」を作成し、2015年度の認定試験から出題基準とし、2019年度の認定試験まで用いた。

さらに、本機構は、各大学及び専門学校に共通なコアカリキュラムが必要であると考えて、2016年（平成28年）に、全国動物教育協会と全国動物保健看護系大学協会の協力の下で、専門学校と大学に共通の「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」を作成し、2017年（平成29年）5月から1カ月間、パブリックコメントを求めた。次いで、パブリックコメントの意見を、コアカリキュラム2019に反映させ、本機構は2017年9月に、大学・専門学校に共通な「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」を取りまとめて、さらに、2019年3月にはそのコアカリキュラムのガイドラインを作成した。なお、そのコアカリキュラムは、2020年度の認定試験から反映されることになった。

「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」は、基礎動物看護学、応用動物看護学、臨床動物看護学及び実習の4分野、学科22科目、実習6科目の計1650時間で構成されている。詳細に述べると、基礎動物看護学分野は、動物の体の構造と機能を学ぶ動物形態機能学及び動物繁殖学の150時間、また疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ動物病理学、動物薬理学、動

物感染症学の180時間である。応用動物看護学分野は、人と動物の調和に関わることを学ぶ動物看護学概論、動物医療関連法規、公衆衛生学、人間動物関係学、動物福祉・倫理、動物行動学の240時間、またさまざまな動物の特性と人との関わりを学ぶ伴侶動物学、産業動物学、実験動物学、野生動物学の150時間である。

臨床動物看護学分野は、動物の臨床看護に必要な知識を修得する動物内科看護学、動物外科看護学、動物臨床看護学総論、同各論の240時間、また動物病院業務に必要な知識を修得する動物臨床栄養学、動物臨床検査学、動物医療コミュニケーションの150時間である。実習分野は、修得した知識の実践学を身に着ける動物形態機能学実習、動物内科看護学実習、動物臨床検査学実習、動物外科看護学実習、動物臨床看護学実習、動物看護総合実習の540時間である。

認定動物看護師試験は、2011年(平成23年)度はマークシート方式で2012年2月に実施したのが最初で、その後はマークシート方式やCBT方式の併用を経て、2015年度認定試験から「認定動物看護師出題範囲2015年」に基づいてマークシート方式で、学説試験90問及び実地試験30問の計120問の試験問題で行われた。過去5年間の認定試験は、3月初旬に実施し、会場は札幌、仙台、東京第一、東京第二、名古屋、大阪、岡山、福岡、那覇の9会場で、受験生は毎年約2,300~2,400名で、合格率は約84~90%であった。なお、受験校数は、2019年の場合、大学8校、専門学校65校であった。

前述のように本機構は、2020年(令和2年)2月27日付で農林水産大臣及び環境大臣から、愛玩動物看護師国家試験の実施機関に指定され、同年2月28日付の官報にそのことが公示された。国家試験機関になることは、本機構にとって愛玩動物看護師法制定時からの強い願いであり、指定されたことは大変光栄であるとともに、責任の重大さに身の引き締まる思いである。今後、本機構は主務省である農林水産省及び環境省の指導の下、愛玩動物看護師の国家試験機関として、特例措置の予備試験を含めた国家試験が適切に実施できるように、万全な準備体制を構築したい。加えて、本機構が従来実施してきた認定動物看護師の統一認定試験をはじめ関連する事業については、その使命が終わるまでの間、適切に取り組む決意である。

## 5 おわりに

国家資格を有する愛玩動物看護師が、動物病院で獣医師と共に獣医療チームを構成し、診療の補助に力を発揮するには、動物病院が愛玩動物看護師有資格者を積極的に雇用し、その知識と技術を十分に発揮できる獣医療環境を提供する必要がある。現在、社会は働き方改革関連

法や女性活躍推進法の改正法の完全施行が強く求められているので、愛玩動物看護師の処遇及び職場環境についても一層整備する必要がある。

また、愛玩動物看護師を養成する教育機関は、教育環境の整備と充実、教育の資質の向上等を図る必要がある。関係団体や機関は、愛玩動物看護師の継続教育(生涯教育)を整備しなければならない。

愛玩動物看護師法が成立し、公布されて1年余も経過した今日に至っても、愛玩動物看護師の活動の目的とその業務について、各分野から独自の意見や拡大された解釈が出回っていることに心を痛めている。その目的と業務は、愛玩動物看護師法に定められた目的及び業務にあるのであり、それ以上でも、それ以下でもない。すなわち、愛玩動物看護師法第1条(目的)には、「この法律は、愛玩動物看護師の資格を定めるとともに、その業務が適切に運用されるように規律し、もって愛玩動物に関する獣医療の普及及び向上並びに愛玩動物の適正な飼養に寄与することを目的とする。」とある。また第40条(業務)には、「愛玩動物看護師は、獣医師法第17条の規定にかかわらず、診療の補助を行うことを業とすることができる。」とある。これらのことは、あらためてわれわれ関係者の共通の認識としたい。

愛玩動物看護師に係る立場の方々には、愛玩動物看護師法の成立にいたる長年の努力を再確認し、情報を共有し、獣医師と愛玩動物看護師の連携による獣医療チーム体制の整備充実に向けての支援と協力を賜ることを願ってやまない。

## 参考文献

- [16] 酒井健夫：ペットの健康を考えよう、ペトハピ(Pet Happy) HP (2015), (オンライン), (<https://www.watch.impress.co.jp/headline/extra/2015/pet/docs/25.html>), (参照2015-10-21)
- [17] 酒井健夫：賢者の目、ペトハピ(Pet Happy) HP (2015), (オンライン), (<https://pet-happy.jp/article/kenja/000172.html>), (参照2016-10-11)
- [18] 内田佳子：AAA(動物介在活動)/AAT(動物介在療法)と獣医師の役割, 日獣会誌, 57, 66-68 (2004)
- [19] 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室：動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律(令和元年6月19日法律第39号), 関連資料(法令・基準等), 環境省 HP (2019), (オンライン), ([https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2\\_data/nt\\_r010619\\_39.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/nt_r010619_39.html)), (参照2020-02-12)
- [20] 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室：改正動物愛護管理法の概要(2019), (オンライン), ([https://www.env.go.jp/council/14animal/mat51\\_1-1.pdf#search=%E6%94%B9%E6%AD%A3%E5%8B%95%E7%89%A9%E6%84%9B%E8%AD%B7%E7%AE%A1%E7%90%86%E6%B3%95%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81+%EF%BC%91%7E12%27](https://www.env.go.jp/council/14animal/mat51_1-1.pdf#search=%E6%94%B9%E6%AD%A3%E5%8B%95%E7%89%A9%E6%84%9B%E8%AD%B7%E7%AE%A1%E7%90%86%E6%B3%95%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81+%EF%BC%91%7E12%27)), (参照2020-01-16)



- [21] 植木圭祐：動物愛護法2019年改正と実務上の課題, LIBBA, 19, 2-6 (2019)
- [22] 日本獣医師会：マイクロチップを用いた動物の個体識別, 日本獣医師会 HP (2019), (オンライン), (<http://nich-iju.lin.gr.jp/aigo/index.html>), (参照 2020-01-14)
- [23] ペットフード協会：2019年全国犬猫飼育実態調査結果報告書(2019年12月23日), 1-108, ペットフード協会, 東京 (2019)
- [24] 日本動物病院福祉協会：高齢者の家庭または高齢者が同居する家庭での動物飼育が高齢者の生活に及ぼす影響の研究, 1-52, 日本動物病院福祉協会, 東京 (2010)
- [25] 日本愛玩動物協会：アパート・マンションを事例として, 飼い主のマナーハンドブック, 2-26, 日本愛玩動物協会, 東京 (2018)
- [26] 日本愛玩動物協会：ペットフレンドリーホームをつくるには, with Pets (ウィズペット), 259, 2-31 (2018)